

---

# チョコパイとキミ

音無 無音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

チョコパイとキミ

### 【著者名】

Z8685U

### 【作者名】

音無 無音

### 【あらすじ】

甘いチョコレートのような初恋相手は彼女です。

俺が君と話したのはあの時だった。

「えーっ、あたしははんたーい！」

とみんなが賛成の中、反対意識の彼女。

「だつて、つーちゃんどーするの？」

「はあ？ 月野はいいだろ？」

「どーせ引きこもりだしなー、と笑う。

月野って言つのは月野むあ。

引きこもりつて言われてるけど

影ではプログラミングやパソコン関連の仕事に  
ひつそり携わつてる言わば天才だ。

「・・・・・じゃああたし、いつかなーい」

「！」

その言葉に俺を含め男子全員が反応する。

この企画は男子が彼女に近づくための企画もある。

・・・・・で、結局のこと中止になつたんだが。

放課後、俺は行きつけのコンビニへと向かつた。

新作の俺の好物の菓子が発売されたのだ。

・・・・・つふ。我ながら大人げない。

そんな気持ちを抱きつつ、俺は店内へと足を運んだ。

・・・・・で、一番最初に見つけたのが・・・・・

「戸畠さん・・・・・・？」

「えつ！？ わつ！？ 素也くん？」

お菓子コーナーと子供っぽい字ででかでかと書かれた場所にいたのが

俺の言う「君」の正 畑さんだった。

「話すの初めてだよね」

「彼女はそう切り出した。

俺は適当に相槌を打つ。

「素也くんは何しにきたの？飲み物かなあ？」

「えつと、お恥ずかしいことにお菓子を・・・・・

「えつ、ホントー？・・・・・まさかの」

「「「」」」

俺らはこれまた恥ずかしいことにハモってしまったのだ。  
指を差した先も同じ 新作のチヨコパイだった。

「ふつ、クスス。おんなじだあ」

ふいにも彼女の微笑みに心が揺らぐ。

て、敵はクラス全員だぞ！

「一種類あるね。ねえね、君がそつち買つて、あたしがこれ買うから分けよーよ」

その発想も可愛い。

勿論俺は彼女の言つとおりにした。

チヨコパイを食べ、帰り道。

俺らはメアドの交換をすることになった。

「・・・・・や、別に俺と交換しても・・・・・」

「いいのーチヨコパイ仲間でしょお？

くつ、怒つてるとも可愛いぜ・・・・・。

俺みてえな地味メンはだめだろつなあ。

そして彼女は分かれ道でこう言った。

「また一緒に食べようね。素也くんと食べるとき、あたしすつ」

幸せ

「……………」

「その、言葉は…………、どう受け取れば？」

「…………んもう、鈍感ッ」

俺に小走りで歩み寄る。

そして

俺の唇と彼女の唇が優しく触れる。

「……………ツ」

「…………えへへ」

くちづき振り返る彼女の顔は微かに赤く染まっていた。

「好きだよ、素也くん」

(後書き)

冷蔵庫のチョコパイからの発想

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8685u/>

---

チョコパイとキミ

2011年10月3日11時17分発行